

# Journey's End

Keisuke Yamaguchi  
(keisuke.yamaguchi@nifty.ne.jp)

2005/5/28



## 1 Introduction

King Curtis が悲運の死を遂げる数ヶ月前に、Fillmore West のライブで奏でた”A Whiter Shade of Pale”が聞こえてきた。

懐かしいような、悲しくなるような、寂しいような、力強く優しいサクソフォンの響き。この瞬間がずっと続けばいいのに…、と思う。

でも、きっと、どんな絶望にさえも終わりがあるように、全ての素晴らしい物事にだって終わりはあるのだ。そしてもしその終わりが僕にこんな物語を告げているのであれば、僕も素直にその言葉に従うことにしよう。

## 2 Story

### 2.1 Camden Town 1969

マーウッド(僕)とウィズネイルは演劇学校以来の友人で、カムデンタウンに借りているフラット<sup>1</sup>で暮らしている。二人とも役者として生計を立てようと考えてはいるものの、契約しているエージェントからの仕事はこないし、昔の友達はみなまともになって去って行ってしまった。残されたのは酒とドラッグにおぼれる毎日。

ある日ドラッグでハイになったマーウッドが近所で朝食をとっていると、ふとしたことで自分たちの今の境遇に危機感を感じ、ウィズネイルと相談することを決意する。マーウッドのまともな意見に耳を貸さないウィズネイルだが、汚れた台所を掃除しようとして出てきたモノにショックを受ける。「どうやらここには長く居過ぎたらしい…」自らの役者キャリアに絶望感を抱いているウィズネイルとは対照的に、マーウッドはつい最近とある劇のオーディションを受けたばかり。マーウッドはウィズネイルに田舎に行って休養することを提案する。

家にあった酒が切れてしまった彼らは近くのパブ<sup>2</sup>へと足を向ける。この界限はアイルランド系の移民労働者が多く住む地域でもあり、パブの中はそんな彼らのよそ者を寄せ付けない空気が漂っている。そんな中、彼らは湖水地方にコテージを持っているウィズネイルの叔父さんに家を貸してくれるよう頼むことを思いつく。早速電話をかけて叔父さんの自宅へと招待を受けるウィズネイルだが、トイレに行ったマーウッドは大柄な男に挑発を受ける。「どの馬鹿野郎だ？」と煽り返すウィズネイルも目の前に現れた男に怯えてしまい、二人は這々の体でパブから逃げ出してしまう。

叔父さんの家を訪問するために身支度している二人のフラットに現れたのはダニー。クスリの売人で、最近はさらに怪しげな商売にも手を出そうとしているらしい。一通りウィズネイルと口げんかをやらかした後で彼は去っていく。

### 2.2 Uncle Monty

ウィズネイルの叔父さんことモンティーの家はチェルシーの閑静な住宅街にある。エキセントリックでゲイのような素振りを見せるモンティーだが、昔は演劇をめざしてウィズネイルの親族の中の少ない理解者のうちの一人らしい。なかなか話を切り出す糸口を見つけれないウィズネイルにしびれを切らしたマーウッドがウィズネイルに葉っぱをかけた結果、ウィズネイルは叔父さんと二人だけの密談をした上でようやくコテージの鍵を手に入れる。

<sup>1</sup>イギリスにおけるアパートのようなもの。学生同士なんかで一緒にフラットに住むことをフラットシェアといい、一緒に住む人たちをフラットメイトという

<sup>2</sup>イギリスでの生活の中心ですね

オンボロのジャガーに乗って二人はカムデンタウンのフラットを後にする。途中で子供を捕まえることを提案し、「何故?」と聞くマーウッドにダニーにもらった怪しげなデバイスを取り出すウィズネイル。酔っぱらい運転で捕まったときに、清潔な小水をすり替えて提出するためのものらしく、子供の清潔な小便を手に入れることを思いついたらしい。

そんなこんなで真っ暗で土砂降りになった中をマーウッドは車を走らせる。道に迷ってしまうものの、酔っぱらってフラフラのウィズネイルを道案内にしてどうにかコテッジへとたどり着く。だが問題はそれからだった…。

苦労してたどり着いたコテッジは真っ暗で電気もなく、椅子を叩き壊して暖炉に投げ入れて寒さをしのぐ二人。

### 2.3 Gone on holiday by mistake

翌朝、ウィズネイルが寝ている中起きだしてコテッジの外から見える圧倒的に素晴らしい景色に息をのむマーウッド。散歩がてらに草地を歩いて近くの農家に薪と食料を分けてもらおうとするが、老婆に拒否されてしまう。「どこに行けば手に手に入りますか?」としつこく尋ねるマーウッドに、「丘の上にいる息子に聞いてくれ」と老婆は答える。

運良くコテッジの横をトラクターで通りかかった農夫(パーキンさん)にお願いして、二人はようやく薪と食料を手に入れることに成功する。コテッジの外に生えていたじゃがいもとパーキンさんにもらったニワトリで、ようやく楽しい田舎の生活は始まるかのように感じられた。

束の間の安心を得た二人だが、ロンドンに電話をかけるウィズネイルの役者人生が上を向く気配は見えない。町での買い物からの帰り道、デズモンド・ウォルフ<sup>3</sup>に名前を変えようかとまで悩み始めたウィズネイル。牛囲い<sup>4</sup>のためのゲートを閉め忘れた二人は、パーキンさんに言われて後ろを振り向くとそこには雄牛が。有無を言わず買い物バッグをマーウッドに押しつけて塀を飛び越えて逃げ出すウィズネイル。「叫び声をあげて突っ込め」と言うパーキンさんに教えられてようやく苦境を抜け出すマーウッド。

コテッジの近くのCrowという名のパブで酒を飲む二人。閉店時間になって店に現れたのは密猟者のジェイク。彼は自分でビールを注ぎ、きじを店長に渡す完全なローカル人。それを見ていた二人はジェイクに何か食料を分けてもらうようお願いするが、「いつかうサギでもやるよ」とジェイクの反応は冷たく、ウィズネイルは逆に彼を怒らせてしまう。

新鮮な食べ物が手に入らないために、銃を使った魚釣り(?)を試みる二人だが、当然うまきはゆかない。帰る途中、コテッジの前を胡散臭そうにうろつくジェイクを見かける。「俺たちに仕返しに来たんだ」と震え上がるウィズ

<sup>3</sup>有名な役者らしい。詳細は不明

<sup>4</sup>イギリスの田舎の小道は牛や羊を放牧するときに使う道を兼ねていることが多い。ゲートが「あって」開けっ放しにするな」と書いてあるか、そもそも牛や羊が通れない細工がしてある。

ネイル。その夜はドアに釘を打って戸締まりをし、おまけに銃を持ったままマーウッドのベッドに潜り込んでくる始末。だがウィズネイルの心配は杞憂では済まず、彼らは侵入者がコテッジへと入ってくる音を耳にする。観念したウィズネイルは猫のような声で許しを請うが、実は侵入者がモンティー叔父さんであることが分かると一転して彼を罵る。

## 2.4 A delightful weekend in the country

モンティーが来たことで不便だったコテッジでの生活は一変する。きちんと準備された朝食と優しく窓から差し込んでくる光…。そもそもモンティーが何故コテッジに来たか分からないマーウッドは、身の危険を感じてモンティーに今日中にロンドンに帰らねばならない、と嘘をつく。

3人は買い出しのためにペンリスの街へ出かけ、モンティーにお金をもらって長靴を買うように指示された二人はそのお金で酒を飲んだ挙げ句に地元の淑女の集まるティーハウス<sup>5</sup>で狼藉を働く。コテッジに戻り、マーウッドはウィズネイルとモンティーのおかしな態度に気づく。あれほどジェイクを恐れていたウィズネイルが平気な顔をしてジェイクの話をしたり、「素晴らしい週末に」と乾杯する。

遅めのランチの後で彼らは近くの草地を散歩する。ボードレールを口ずさむモンティーと鍵付きの部屋で一人で寝ることをウィズネイルに約束させるマーウッド。そして3人はコテッジの周りをうろつくジェイクを見つける。彼を理由にロンドンに帰ることを主張するマーウッドだが、コテッジのドアにかかっていたのは意外にも約束したウサギだった。安心してポーカーに興じながらラテン語で会話する二人と、一人煙に包まれたように悩むマーウッド。やがてウィズネイルは酔っぱらって一人鍵のついた部屋で寝てしまう。

## 2.5 Calculated risk

「君はスポンジかね？それとも石かね？」と迫ってくるモンティー。どうやらウィズネイルはモンティーに「マーウッドが自分を愛しているが自分は彼を愛せない」と嘘を教え込むことでコテッジの鍵を借りることに成功していたらしい。半裸状態で極度な危険を察したマーウッドはとっさに彼とウィズネイルがデキていると嘘をつく。「この6年間で一緒に寝ないのは今日が初めてなんです！」ようやく強姦魔の手から逃れたマーウッドは早速ウィズネイルに釈明を要求するが、“戦略的必要性”と“計算されたリスク”という言葉で誤魔化されてしまう。

翌朝、恋破れたモンティーは置き手紙を残して去って行ってしまった。「私は、いつまでも忠実に君のものです」。彼は昨晚のマーウッドとウィズネイル

<sup>5</sup>このへんの感覚は日本では伝わりにくいかもしれないけれど、いまだに階級意識の強いイギリスでは上流階級のサロンのようなところは非常な閉鎖的な雰囲気がある

の会話を聞いていて、彼がウィズネイルにハメられたことに気づいていたのだった。「君はとんでもないことをしたぞ」というマーウッドに、「モンティーのワイン倉は素晴らしい」と平気な顔のウィズネイル。やがて電報が届き、マーウッドは受けたオーディションに合格して役が与えられたことを知る。

## 2.6 Journey's End

早速ロンドンへと車を飛ばす二人だが、壊れたワイパーでは土砂降りの雨の中を走るとはすなわち死を意味する。疲れ果てて眠り込んでしまったマーウッドが目覚めると、動いているはずのない車が動いている。なんと免許を持っていないウィズネイルが高速をカッ飛ばしていたのだ。とんでもない運転で警察に捕まる二人。ウィズネイルは引立てられた警察署でダニーにももらったデバイスを駆使してすり抜けようとするが、警察官に見とがめられてしまう。

どうにかこうにかフラットへとたどり着いた二人は、フラットにダニーとその相棒が忍び込んでいるのを発見する。なんと下水管を伝って進入して居着いていたらしい。エージェントに電話して主役をもらえたことを知って喜ぶマーウッドと、そのお祝いを言うウィズネイル。ダニーは怪しげな葉っぱを巻き、それをみんなで吸ってフラットは異様な雰囲気包まれる。ふとしたことからダニーが大家と喧嘩をして、フラットから退去処分にあっていることを知るマーウッドだが、ウィズネイルは葉っぱで朦朧としていて頼りにならない。パニック状態に陥って部屋を出ていくマーウッド。ダニーは平然と「素晴らしい時代の終わりさ」とひとりごちる。

髪のをきれいに刈って、主役を演じるために旅立っていくマーウッド。モンティーの倉から押収したマルゴーで別れを乾杯しようというウィズネイルだが、マーウッドはいつになく冷たく電車で遅れてしまう、とにべもない。

それなら駅まで送っていこう、と二人は雨のリージェントパークを歩いていくが、途中のオオカミの柵の前でマーウッドはもうこれより先には来ないでくれ、とウィズネイルに頼む。最後の乾杯をするウィズネイルと「寂しくなるな」と言って去っていくマーウッド。オオカミを相手にハムレットの台詞を投げつけるウィズネイル。パーティーの終わり…。

### 3 Analysis

#### 3.1 ウィズネイルのモデルについて

ブルース・ロビンソンが“ 僕 ”で、彼の演劇学校以来の友人であるヴィヴィアン・マッケレルこそが“ ウィズネイル ”のモデルである、という見方が多くなされているようだけれど、どうやら完全にそうとはいえないのが本当のところらしい。

というのは、この映画の台本を書いたブルース・ロビンソンの状況こそまさに映画の最後でオオカミ相手にハムレットを演じてみせたウィズネイルと同じようなものであったからに他ならない。

このあたりは Kevin Jackson による解説本 [2] の P.32 あたりに詳しいのだけれど、1969 年から 1970 年にかけての冬の間、ちょうど映画の中の“ 僕 ”と同じようにヴィヴィアンは演劇のツアーのために出かけてしまう。そして一人フラットに残されたブルースは寒さと飢えを耐え忍びながら生活する。なにせ食べるものといったらカムデン・マーケットの余りもののリンゴやカブで、ひとつしかない電球を家の中でつけかえつけかえ使っていた …、というのだからとんでもない生活であったに違いない。

心強い仲間がいたからこそ忍ぶことのできていた毎日から、支えてくれる仲間のいない、静まりかえったフラットでの毎日 …。

こんなお金も職も何もない状態で彼は裁判所へ呼び出されて罰金を払うように命ぜられ、どん底生活はピークを迎える。

I started weeping and screaming at the floorboards. Begging the God of Equity, or any fucking god, you know, to help me. And then it really made me laugh, the predicament I was in. - I laughed hysterically when I thought about it. And I had this old Olivetti typewriter that I used to try and write poetry on. I sat down and started writing this story about my predicament, involving me and my friend who had now gone.

もちろん、ウィズネイルのキャラクター生成の上でヴィヴィアンが果たしたたたであるう役割は多い。

## 参考文献

- [1] THE ORIGINAL SCREENPLAY Withnail and I - Bruce Robinson
- [2] BFI MODERN CLASSICS Withnail and I - Kevin Jackson